

竜門ダム水源地域ビジョン

平成16年3月

竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会

目 次

1. 水源地域ビジョンの策定概要	1
1.1 水源地域ビジョンの策定の主旨	1
1.2 竜門ダム水源地域の特色	1
1.3 実施内容	2
1.4 ビジョン策定までの流れ	3
1.5 実施予定表	4
1.6 竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会の組織及び役割	4
1.7 竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会メンバー	5
2. 基本方針	6
2.1 竜門ダム水源地域ビジョン基本方針	6
3. 実施メニュー	7
4. 役割分担	26
5. 活動組織	27
5.1 竜門倶楽部(仮称)の設立	27
5.2 実行ワーキング部会(仮称)の立ち上げ	27

1. 水源地域ビジョンの策定概要

1.1 水源地域ビジョン策定の主旨

従来、ダムは治水、利水等主に下流地域の国土保全、国民生活の安定、産業経済発展のために利用されてきました。

21 世紀においては、これらのダムの効果に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用した地域の振興及び、バランスのとれた流域の発展を図ることにより、21 世紀のグランドデザインの一部として機能することが期待されています。

これを踏まえ国土交通省菊池川河川事務所では、竜門ダム水源地域の自治体と共同で、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」を策定することとしました。

水源地域ビジョンの策定・推進にあたっては、ダム水源地域の自治体である菊池市及び、その住民等が河川管理者である菊池川河川事務所と共同で策定主体となり、下流自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら実施します。

1.2 竜門ダム水源地域の特色

竜門ダムは、世界一のカルデラ式火山である阿蘇の外輪山を水源とし、熊本県北部を東西に貫流して有明海に注ぐ一級河川菊池川の支川迫間川に、洪水調節、河川環境の保全、かんがい・工業用水の供給を目的として建設されたダムです(平成 14 年 3 月建設完了)。

竜門ダムの水源地域である熊本県菊池市は、熊本県北東部に位置し、阿蘇外輪山に源を発する菊池川・迫間川に育まれた豊かな自然環境に恵まれています。その恩恵を受けて菊池米など多くの特産品が生産されて、また泉質豊かな菊池温泉、四季折々に美しい菊池渓谷、その名を全国に知らしめた菊池一族などの歴史遺産も多く、観光都市としても発展してきました。

しかし、市民アンケートでは「市が全体的に活気がなくなっている」「水の豊かさ・きれいさが失われてきている」の等のことも課題として挙げられており、「花と緑と清流のまち」をキャッチフレーズに豊かな自然をいかしたまちづくりを進めています。

このように本地域では恵まれた地域資源を活かした地域づくりが進められていますが、一方で少子・高齢化や過疎化、農林業の低迷等で中山間地域の自然環境が荒廃しているという問題点も抱えています。

水源地域ビジョンの策定はこのような背景を踏まえ、上下流共同体意識の醸成と行政間の連携を高め、竜門ダムを中心とした水源地域のネットワーク化等を図り、流域経営の観点から、竜門ダム水源地域の自立的、継続的な活性化を図ることを目的として行ったものです。

1.3 実施内容

平成 15 年度は、水源地域の現状把握を行うと共に、竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会を設立し、水源地域ビジョンの策定を行いました。平成 16 年度以降においては水源地域ビジョンの実施として具体的なメニューを進めます。

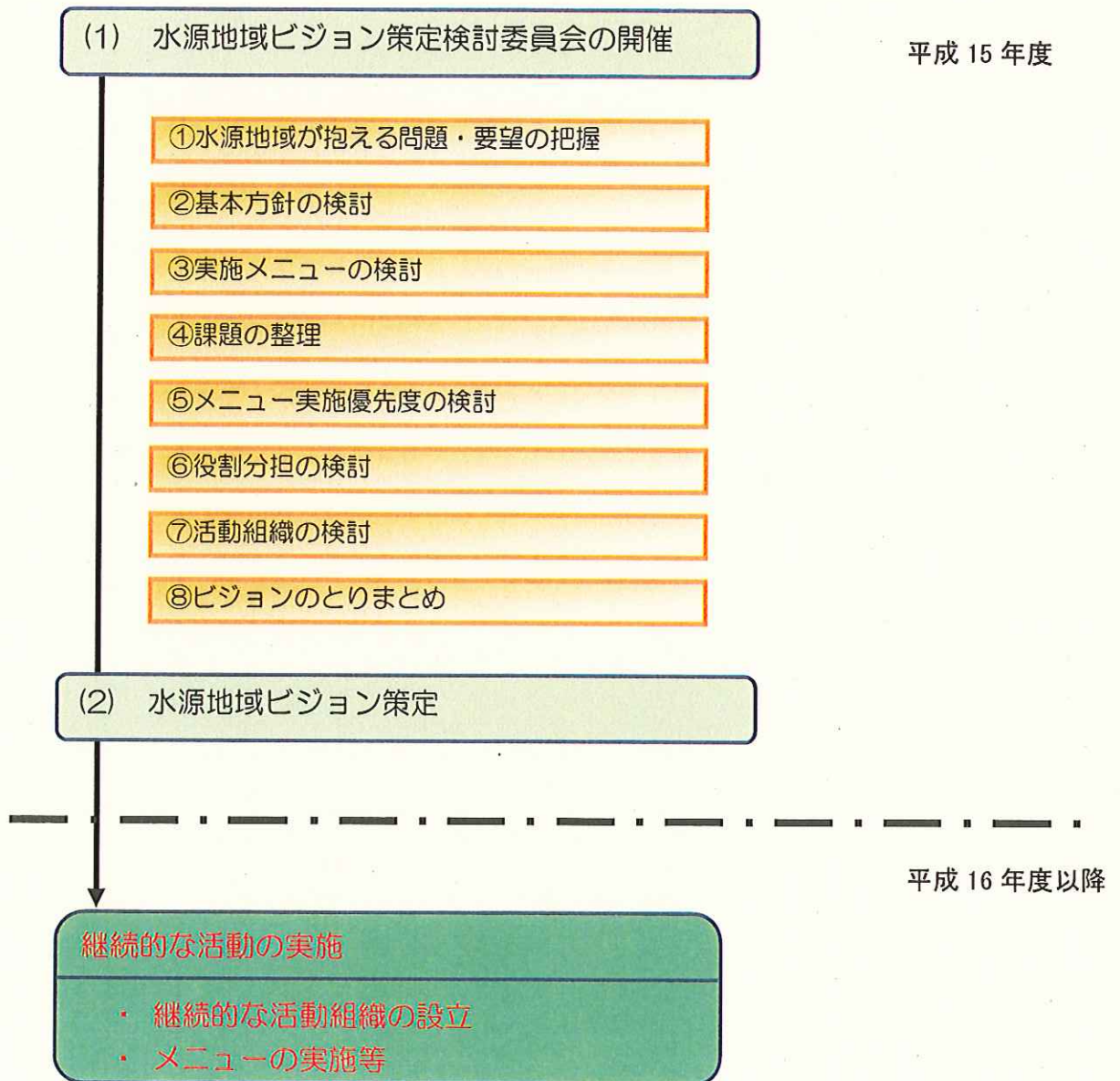
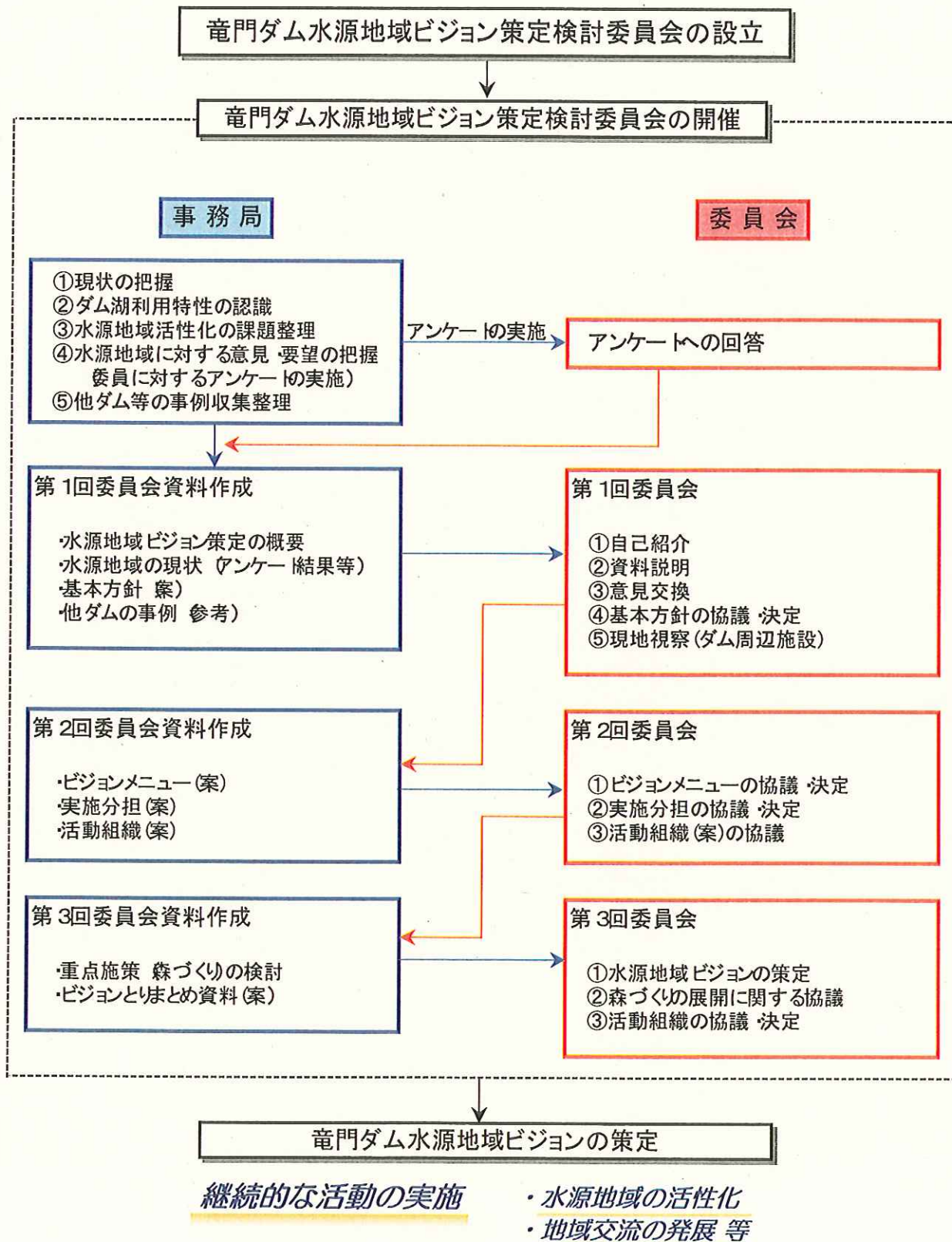


図-1.1 実施内容

1.4 ビジョン策定までの流れ



図ー1.2 ビジョン策定までの流れ

1.5 実施予定表

表-1.1 ビジョン策定スケジュール

	平成 15 年		平成 16 年							
	12 月		1 月		2 月		3 月			
	10	20	10	20	10	20	10	20		
(1) 委 員 会		○ (17 日)				○ (20 日)		○ (18 日)		
(2) 現状の把握	■									
(3) 水源地域が抱える 問題・要望の把握	■		■		■					
(4) 基本方針の検討	■		■		■					
(5) 実施項目（メニュー） の検討		■	■		■					
(6) 課題の整理				■	■					
(7) メニュー実施優先 度の検討						■	■		■	
(8) 役割分担の検討						■	■		■	
(9) 活動組織の検討							■	■		■
(10) ビジョンとりま とめ（案）の作成							■	■		ビジョン策定▽
(11) 報告書作成								■	■	

1.6 竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会の組織及び役割

竜門ダム水源地域ビジョンは、竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会が策定しました。

竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会の運営に関する事務作業は、事務局を設置し行いました。

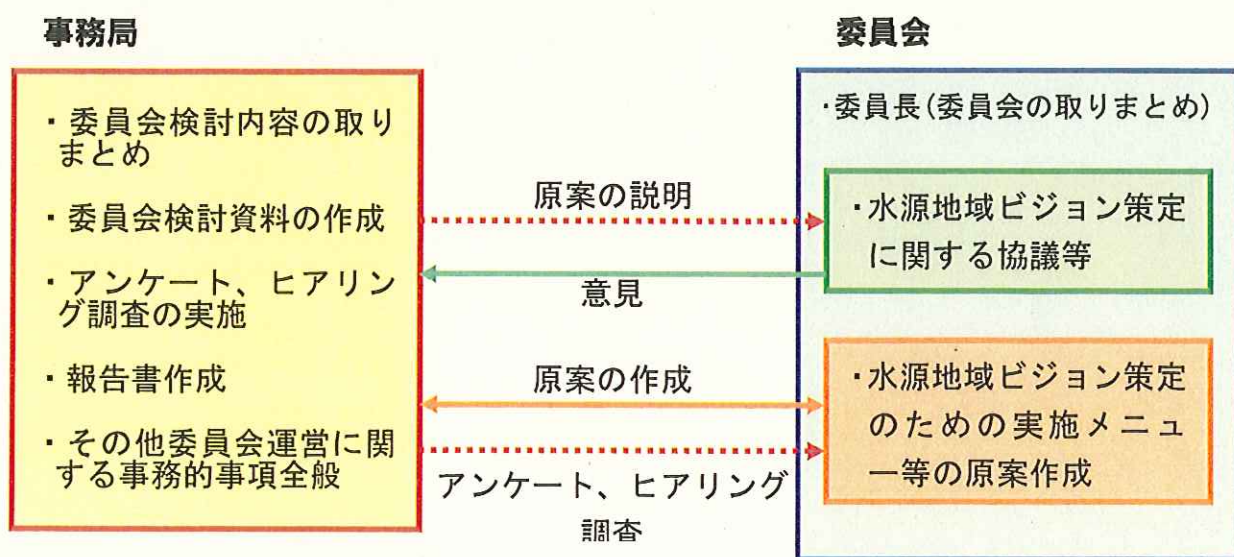


図-1.3 委員会組織

1.7 竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会メンバー

竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会の委員並びに事務局の選定は、ダム周辺及びその関係者としました。

表－1.2 竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会メンバー

機関名	所 属	氏 名	備 考
委 員 会	熊本県立大学 教授	米澤 和彦	委員長
	菊池市ダム流域対策協議会 会長	森田 精一	
	菊池市商工会 会長	笠 愛一郎	
	菊池観光協会 会長	岩永 一	
	龍門区長会 地区長	山本 勝義	
	龍門ふるさと振興会 会長	富田 栄一	
	菊池川キッズ探検隊 隊長	村上 正八	
	菊池の未来を考える会	坂口 治一郎	
	龍門林業研究グループ 会長	山野 幸輔	
	菊池市農村女性グループ協議会 会長	森本 生子	
	菊池市商店会連合会 会長	柁原 賢一	
	菊池温泉観光旅館協同組合 理事長	岩永 悦朗	
	菊池市地域婦人会連絡協議会 会長	奥田 和子	
	菊池市女性団体代表者会 会長	高山 千鶴子	
	熊本県椎茸農業協同組合 組合長	木村 末弘	
	J A 菊池 代表理事組合長	上野 松年	
	菊池川漁業協同組合 組合長	三原 眞祐	
	菊池市 助役	隈田 亮平	
	熊本県菊池地域振興局 土木部長	中原 輝男	
	国土交通省菊池川河川事務所 所長	加治屋 義信	
事 務 局	菊池市 総務企画部 政策推進課	松野 浩一	
	地域振興係長	中村 潤一郎	
	地域振興係		
	国土交通省菊池川河川事務所		
	技術副所長	岡田 一俊	
	建設専門官	守山 栄三郎	
	管理課 管理課長	伊藤 直喜	
	管理係長	有村 芳広	
	管理係	谷川 勝	
	竜門ダム管理支所 管理支所長	大内田 聖和	
	管理係長	岩崎 靖生	
	管理係	出水 広信	
	資料作成委託コンサルタント	木寺 佐和記	
	西日本技術開発(株)	松永 敬治	
		小河 真希子	
		岩本 滋郎	

2. 基本方針

2.1 竜門ダム水源地域ビジョン基本方針

ビジョンの策定に当たって、竜門ダムを中心とした水源地域振興のために以下の基本方針を設定しました。

竜門ダム水源地域ビジョン 基本方針

- 
- ①地域住民が他地域の人に自慢できるような水源地域を目指します
 - ②菊池川の清流と美しい自然を守り育てる竜門ダムを目指します
 - ③技術・知識や今ある施設を活かして、多くの人が集い交流する竜門ダムを目指します
 - ④竜門ダムを中心に、未来を担う人づくりを目指します
 - ⑤水・自然の大切さや地域の文化・歴史などを多くの人に発信する竜門ダムを目指します

3. 実施メニュー

基本方針に基づき、実施メニューを検討しました。実施メニューの一覧を図-3.1に示します。なお、各メニューの具体的な実施項目は実施メニューシート（9頁～25頁）に掲載します。

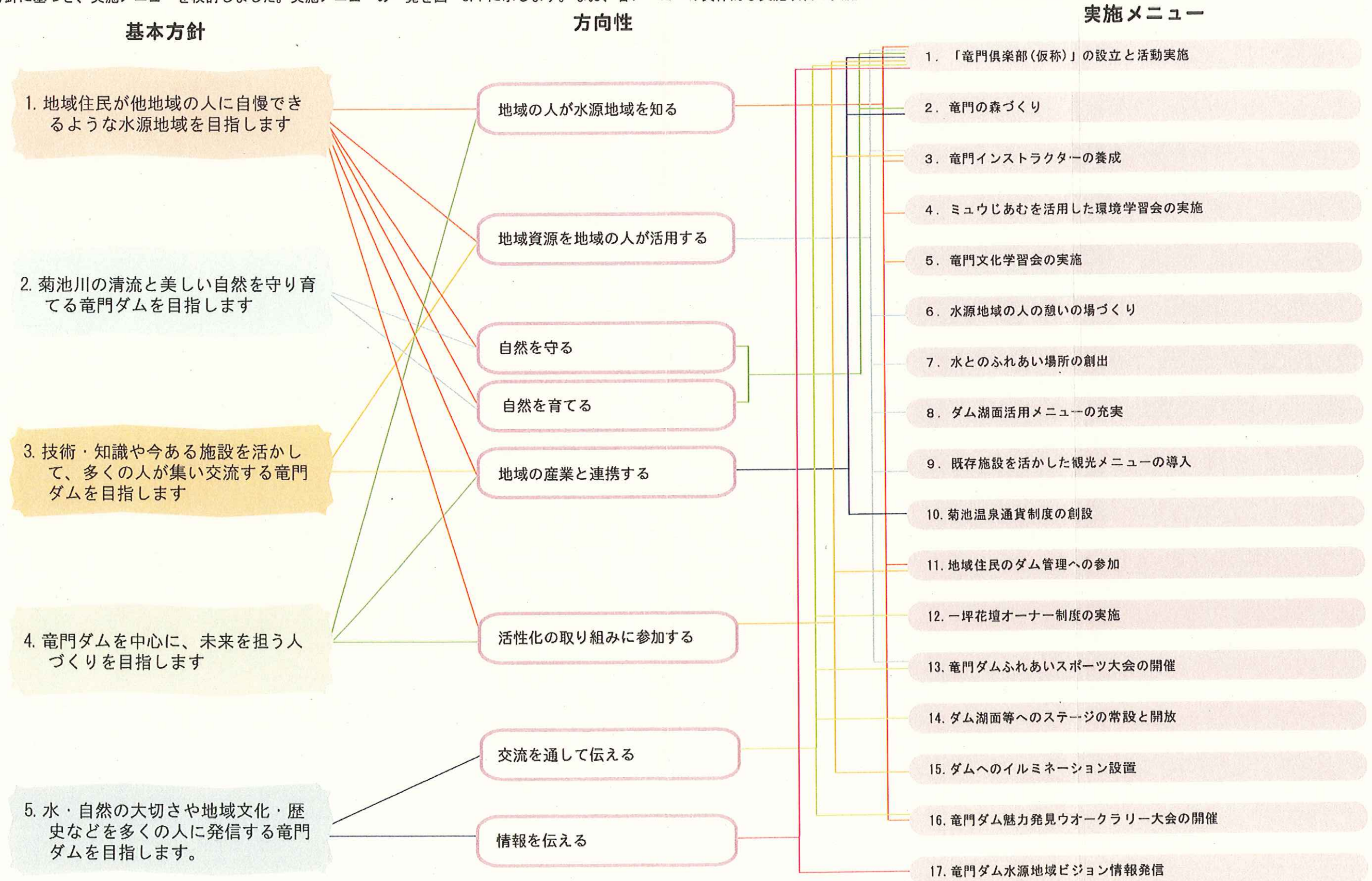


図-3.1 実施メニュー

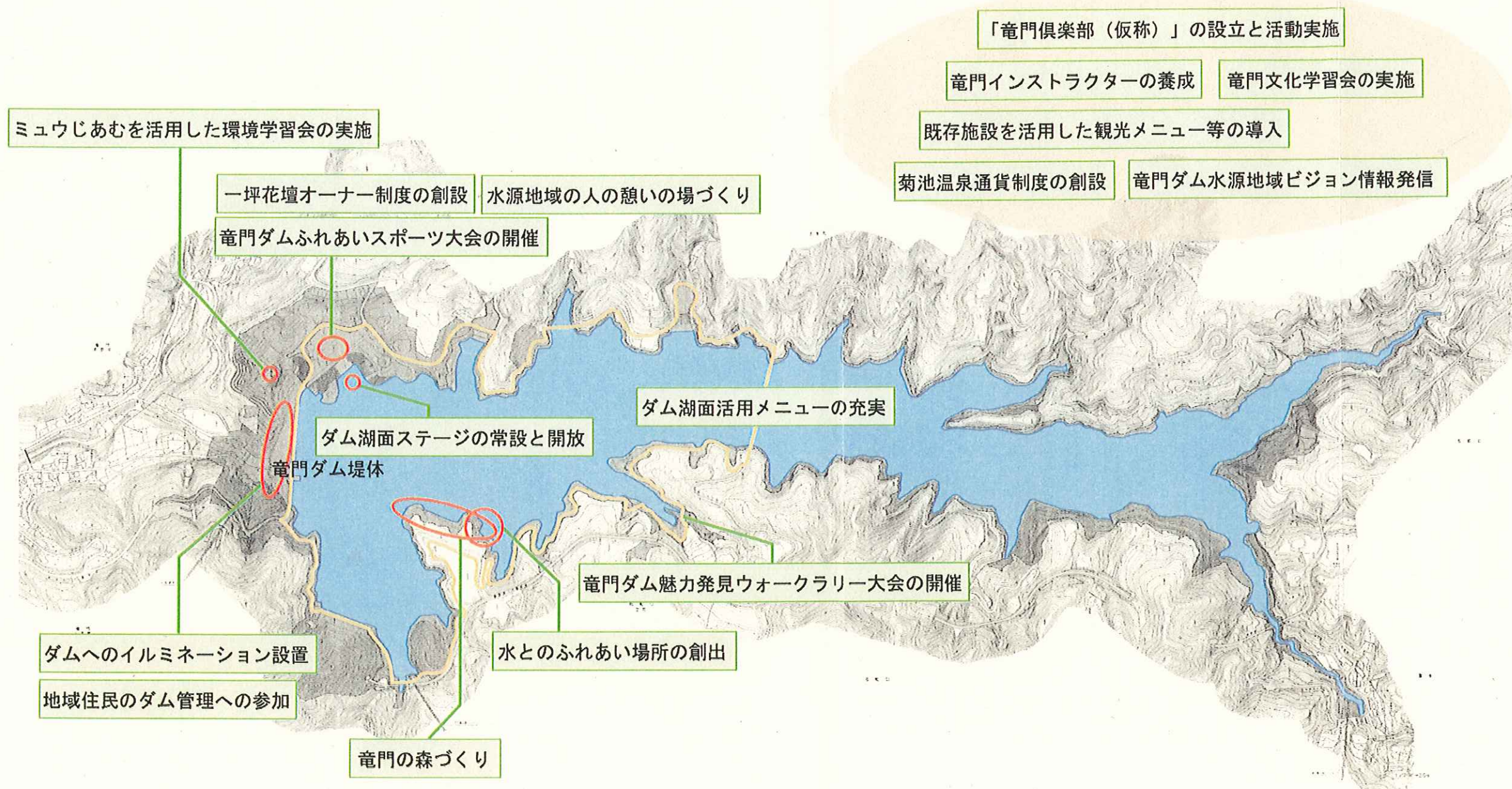
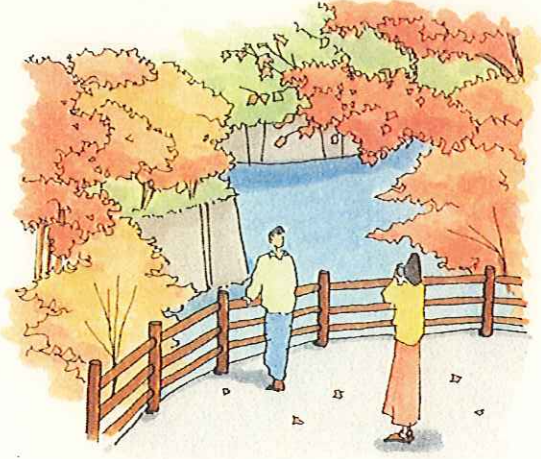


図-3.2 ビジョンメニュー実施イメージ

1	「竜門倶楽部(仮称)」の設立と活動実施
目的	・本ビジョンでは「菊池川の清流と美しい自然を守り育てる竜門ダムを目指します」という基本方針を設定している。竜門ダム水源地域は豊かな自然を保有しており、これらを守るための核となる保全組織の設立と活動を行う。また、本ビジョン推進のための中核を担う活動組織として位置づける。
実施内容	<u>(1) 竜門ダム周辺の自然・景観保全のための活動</u> ・水源地域住民を中心に行政の協力のもと、自然・景観保全のための活動を行う。 ・本倶楽部では現状の自然・景観を保護するための協議を行うとともに、長期的な環境保全についても検討する。必要に応じて現状把握のためのパトロールも行う。 <u>(2) 竜門ダム水源地域ビジョン推進のための活動</u> ・竜門ダム水源地域ビジョンの実現に向けて、実施メニューを推進するための核となる組織として活動を行う。 ・竜門ダム水源地域ビジョンで掲げる実施メニューについて、継続的に協議を行い、実行に移すものから実行ワーキング部会を立ち上げ、具体的な個別メニューの検討を行う。 <u>(3) 各種イベントへの協力・連携</u> ・各種イベントへの協力・連携について協議を行い、可能な部分の支援を行う(広報等)。 <u>(4) 龍龍館の活性化への支援</u> ・活性化策の検討及び情報交換や、特産品や食事メニューへのアイデア提供を行う。 <u>○上記の活動は龍龍館を拠点とし、まずは、有志による意見交換から始める。メンバーの固定は行わない(龍龍館を活用することで、龍龍館の更なる活性化も期待できる)。</u>

2	竜門の森づくり
目 的	・竜門ダムはダム地点からその水源林を良く見晴らすことができる。また、水源地域としては「山やみどりを守る」ことが「水を守る」ことになる。「森づくり・植林」は他の地域でも行われているが、この水源地域でも「地域住民が主体となった森づくり運動」を行うことが必要である。
実施内容	<u>(1)四季の森づくり</u> ・山を守ると同時に観光資源となりうる可能性が高い広葉樹の植樹会及び下草刈り等山の手入れの体験会を行う。 ・ここでは、水源地域を含む菊池川流域の小学生や父兄等の住民や、有明海の漁業関係者、地域外の人々に広く参加を呼びかける（各機関ホームページ、市報等の広報誌、流域商店へのポスター配布など）。 ・これらは、ダムのイベント時にあわせ開催する。 ・森づくりの活動は新聞、TVなどに取り上げてもらい広く広報する。 <u>(2)キッズの森づくり(仮称)</u> ・ダム左岸側ヘリポート付近には竹が生い茂っている。これらはダム湖からの景観を阻害しているとの声が多い。 ・森づくりの第一ステップとしてこの場所の竹やぶを伐採し、子供たちの植林体験場所として利用する。 ・桜、つつじ、もみじ等四季の景観が楽しめるものを植樹する。 ・また、左岸側に設置されている遊歩道についても同様の植樹を行い、四季の景観を楽しめる回廊として整備する。 <u>(3)思い出の森づくり(仮称)制度の創設</u> ・菊池温泉の観光客にダム周辺への記念植樹をしてもらい水源地域を思い出の場所として大事にしよう。 <u>(4)森づくり株券制度の創設</u> ・都市部や近隣地域住民を対象に「森づくり株券(仮称)」を発行し山林整備の財源とする。株主には竜門の森づくりに参加してもらう。 

3	竜門インストラクターの養成
目 的	・インストラクターとして地域文化・自然の案内や体験学習等を指導することで、地域の人が水源地域により愛着や誇りを持つことができるようになること ・住民が地域の文化や環境について詳しく知り、体験学習や観光に訪れた人に対して、自ら伝えたり、指導したりすることができるようになること
実施内容	・地域文化・自然の紹介や体験活動を指導（指導の補助）できる人材を養成するための講座を開講する。 ・講座は単位制とし、地域内の人から募集する。 ・一定単位を取得した人を竜門インストラクターとして登録する。 ・講座の講師は地域内外から招き、地域の人々が楽しく、意欲的に参加できるような講座を目指す。 【例】 ・講座は「森のインストラクター」、「水遊びインストラクター」など、いくつかの分野に分けて実施する。 ・一人が複数のインストラクターになることもできるようにする。 ・ミュウじあむの見学や遠足等の予約があった場合には、「竜門インストラクター」が現地で待機し、講座で得た知識を活かして、訪れた人々が楽しく施設を利用できるような案内（指導）を行う。 ・林業体験や環境学習の際は、メインの講師として、また講師をフォローする立場として参加してもらう。

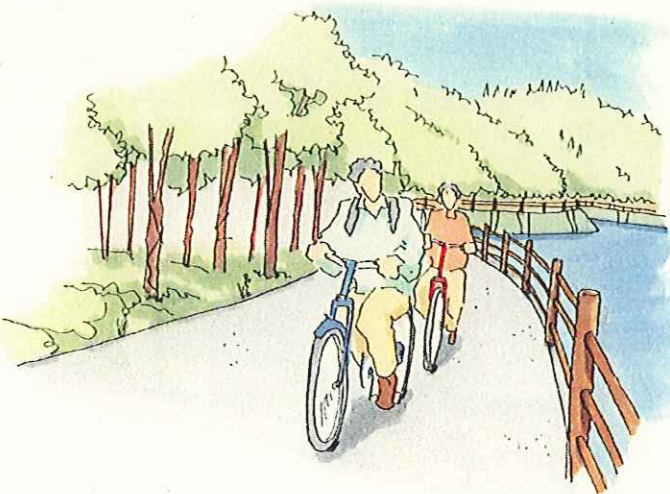
4	ミュウじあむを活用した環境体験学習会の実施
目的	・水源地域では水を守るための様々な努力がなされている。このことを下流受益地の人々が理解するとともに、積極的に支援を行うことが必要である。そこで、下流受益地の子供たちに水源地域の子供たちとの環境学習や遊びを通し、自然の美しさ・楽しさ・大切さを理解してもらうための「環境体験学習会」を行う。
実施内容	・水源地域内外の小学生を対象に、ミュウじあむを活用した環境学習会やダム湖面を利用したボート教室、山林の下刈り作業体験、ダム周辺でのアウトドア体験等の環境体験学習会を開催する。 ・講師はそれぞれの学習メニュー内容を得意とする方を地域内外から募る（インストラクター養成講座の受講者等）。 ・また、同時にインストラクター養成講座を開講し講師の育成を行う。

5	竜門文化学習会の実施
目 的	・水源地域をより魅力ある場所とするためには地域の方が自分の地域を良く知ることが大切である。ダム周辺には大切にすべき歴史文化が数多く存在することから、これらを学習し次の世代に語り継ぐための竜門文化学習会を立ち上げる。
実施内容	・地域住民による地域の歴史文化の学習を通した潜在的魅力の発見を行ための文化学習会を立ち上げる。 ・地域のすばらしい歴史文化を次世代の担いでである子供たちに語り継ぐ。 ・地域資源のいわれやその歴史をとりまとめた「おはなし本(小冊子)」を作成し配布する(小学校の授業の副読本等に利用)。

6	水源地域の人の憩いの場づくり
目 的	・誰もが気軽にダムを訪れて、気持ちよく集える場所づくりを行う。ここでは、植林等により木陰を作り、竜門ダムが憩いの場となるよう整備を行う。このことにより、ダムでの滞在時間延長の可能性が生まれ、来訪者の交流や龍龍館の利用活発化を図る。
実施内容	・エントランス広場周辺に憩いの場を創出する。人が集いやすくなるような木陰づくりを行う。 ・樹木は生育に時間がかかることから、まず、藤棚による日陰を作ることから始める。

7	水とのふれあいの場所の創出
目 的	・本ビジョンでは「清流と美しい自然を守る」「未来を担うひとをつくる」ことを基本方針として設定している。子供たちが水とふれあい自然を体験することで水を含む自然のすばらしさを感じることが出来るを考える。竜門ダム周辺では、まだ水辺に近づきがたい場所が多いのが現状であり、容易に水辺に近づける場所を創出する。
実施内容	<u>(1) 水とのふれあい場所の創出</u> ・ダム上流部や、左岸側ヘリポート周辺(現在竹藪になっている)に子供が水とふれあい、自然を体験できる場所の創出(水に近づけるようにする)。 (水深が浅く、流れが緩やか等の比較的安全な場所に近づけるようにするが必要) <u>(2) 釣り場の確保</u> ・安全に釣りが出来る場所を整備する。

8	ダム湖面活用メニューの充実
目 的	・ 竜門ダム湖における漕艇競技は活発であり、ダム湖利用の先進地であると言える。しかしながら、漕艇競技はその対象者が限定されることから、より幅広い層のダム湖利用などの声が上がっている。そこで、これまでのダム湖利用に加えて、新たなダム湖利用メニューの導入を図り、より多くの人に利用されるダム湖づくりを進める。
実施内容	<u>(1) 貸しボート事業の導入</u> ・ 竜門ダム湖を利用した貸しボート事業(手こぎボート、足こぎボート等)を行う。 (ボート等の購入予算等の検討が必要である。運営・管理については龍龍館等既存の組織を活用し、収益については施設の維持管理や森林整備の財源とすることが考えられる) <u>(2) 既存水上スポーツ以外のメニューへの開放</u> ・ ウインドサーフィン、ヨット等への開放 <u>(3) 竜門手作りいかだコンテストの開催</u> ・ 夏場に、漕艇競技の練習を行っていない場所を使って恒例のいかだコンテストを行う。 <u>(4) 水上スポーツの合宿の場としての利用</u> ・ 高校、大学、社会人等の水上スポーツグループの合宿の場として開放し誘致する。 ・ 宿泊場所については菊池温泉との連携を検討。 A watercolor-style illustration showing three people in kayaks on a calm lake. The person in the foreground is in a red kayak, wearing a yellow life vest and paddling. Two other people in smaller kayaks are further back. The background features green trees on the left and rolling hills under a blue sky with a few birds.

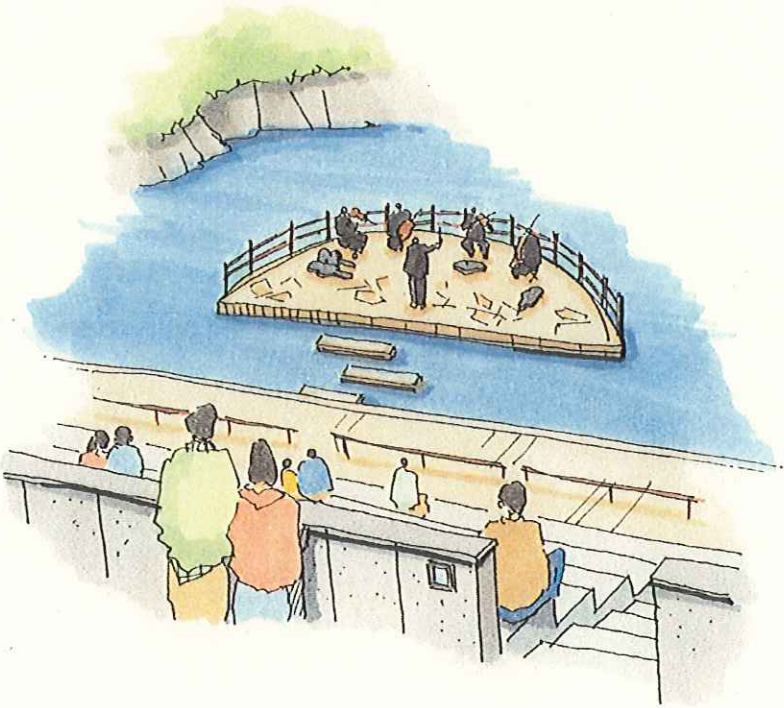
9	既存施設を活用した観光メニュー等の導入
目 的	・竜門ダム周辺においては各種の施設が整備されており休憩や見学といった利用は多い。しかし、体験型の観光メニューが存在しないことからダム周辺の滞在時間は短い。そこで、体験型の観光メニューを充実しダムでのレジャーを菊池観光の目玉の一つとなるようにする。
実施内容	<u>(1) ダム湖周回道路のサイクリングコースとしての活用</u> ・竜門ダム周辺道路やエントランス広場を利用した貸し自転車事業を行う。 (指導・管理については龍龍館等既存の組織を活用し、収益については施設の維持管理や森林整備の財源とする) <u>(2) ふれあい移動牧場の開催</u> ・エントランス広場を活用し、春から秋にかけて定期的に羊、山羊等の動物とのふれあいの場を創出する。 ・エントランス広場に移動可能な簡易的な柵を設置し羊、山羊等の動物を放牧する(開催日以外は撤去)。 ・これにより、ダムへの集客、滞在時間の長期化、エントランス広場の除草(動物が雑草を食べる)が期待できる。 <u>(3) エントランス広場のキャンプエリアとしての開放</u> ・エントランス広場をキャンプエリアとして開放する。 <u>(4) 左岸側ヘリポート付近トンネルの倉庫としての活用</u> ・菊池川キッズ探検隊においては子供を対象とした環境教育等を実施している。教育に利用するボート等の資材を多く保有しているが保管場所がなく、個人の家等に点在して保管しているのが現状である。今後、環境教育をより活発化していくためには、これらを一箇所で保管できる倉庫の確保が有効であり、現在、使用されていないヘリポート付近のトンネルを倉庫として活用する。 

10	菊池温泉通貨制度の創設
目 的	・水源地域活性化のためには地元観光産業との連携が有効である。そこで、ダムでのイベント等により集まった人々を菊池温泉街に誘導し地域産業の活性化を図ることを目的に「菊池温泉通貨制度の創設」を行う。
実 施 内 容	・ダム周辺の清掃、やイベント参加等のボランティア活動に対し、菊池温泉街でのみやげ物引換券や温泉入浴券を発行する。（費用負担については検討が必要） 【例】 ・森づくり、ダム周辺清掃等に参加してくれた人々に入浴券や菊池温泉限定の金券やみやげものの引き換え券等を渡す。 ・逆に菊池温泉に宿泊された方に、竜門ダムでのボート乗船券（ダムでの貸しボートの導入が条件）を渡す。 例) 発行形態 紙幣 交換単位 500 グリーン=500 円相当=1 回の活動 流通地域 菊池温泉街

11	地域住民のダム管理への参加
目 的	・ダム事業に水源地域住民の理解は不可欠である。日常のダム管理に水源地域住民が参加し身近な交流が生まれることで、ダムへの理解が深まるとともに、ダム管理者側も地域住民の想いを更に理解することができる。
実施内容	・監査路の巡視点検等住民が参加可能なものについては、見学を兼ねたバックヤードツアーやダム管理体験ツアー等のイベント的な要素を踏まえたダム管理への参加をしてもらう。 ・ダム周辺の清掃、エントランス広場の樹木の手入れ等のダム管理に地域住民ボランティアが参加する。

12	一坪花壇オーナー制度の創設
目 的	・ 竜門ダム周辺には色々な樹木が植栽されている。しかし、これらは鑑賞の季節が限定されるのが現状である。そこで、ダム湖周辺において春夏秋冬楽しめる美しい景観を創出するために「一坪花壇オーナー制度」の立ち上げを行う。また、オーナー制度により水源地域以外の人々にも本地域に愛着を持ってもらい水源地域への理解を深めてもらう。
実施項目及び内容	・ ダム周辺に花壇に使えるスペースを確保し花壇オーナーを募集する。オーナーには花壇作成や季節ごとに草花を植えてもらい、ダム周辺を季節の花々で彩る。 ・ 季節ごとに植栽イベントを行い、地元住民及びオーナー相互の交流の場とする。 【例】 ・ 花壇作りや植栽を竜門ダム花祭りとしイベント化する。 ・ オーナーには自分の好きな花壇を作ってもらう。レンガや石積み、丸や三角等。 ・ 花壇を彩る草花は、年に一回程度オーナー会議をミュウじあむ等で行い話し合ってもらう。 ・ 草花作りに詳しい地元住民が花壇作りや草花の植樹を指導し、これを通じて交流の輪を広げる。 ・ 定期的にダムのホームページで花壇の状況を発信する。オーナーはこれを見て手入れに来る。 A watercolor-style illustration showing two people engaged in gardening. One person, wearing a blue shirt and light-colored pants, stands on the left, looking towards the other person. The second person, wearing an orange shirt and dark pants, is kneeling on the ground, focused on planting or tending to small flowers in a designated flower bed. The flower bed is bordered by a low wooden fence. In the background, there are several trees with green foliage, suggesting a park or natural area. The overall scene is peaceful and depicts community participation in environmental improvement.

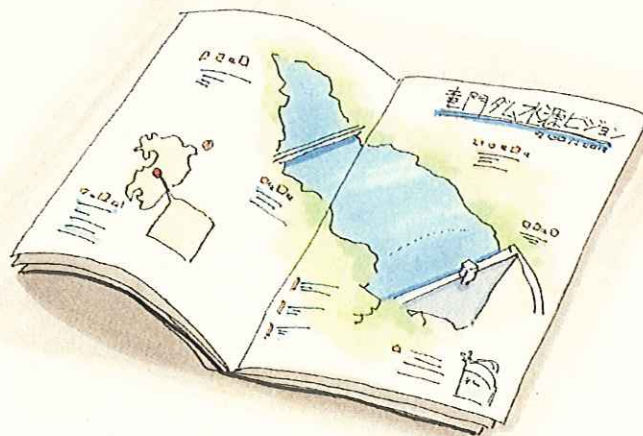
13	竜門ダムふれあいスポーツ大会の開催
目 的	・ 竜門ダムを水源地域内外の多くの人が集い交流する場とするために、スポーツを通じた交流機会として「竜門ダムふれあいスポーツ大会」を開催する。
実 施 内 容	・ エントランス広場を利用しスポーツ大会を開催する。 ・ 参加者は水源地域内外から広く募集する。 【例】 ・ エントランス広場を利用し親子フットサル（サッカーを簡易にしたもの：5人制のミニサッカー）大会。 ・ エントランス広場を利用し地域の運動会を開催する。競技は子供から高齢者までが参加できるものを行う。 A colorful illustration showing a soccer game in progress. Three players are visible: one in an orange shirt and blue pants is kicking the ball, while two others in blue shirts and white pants are running towards it. The field is green with a yellow goalpost in the background. There are trees and a fence behind the field, and a blue sky above.

14	ダム湖面等へのステージの常設と開放
目 的	・竜門ダム周辺でのイベント等行事の効率的・効果的实施や、他地域住民も含めた文化的活動・交流の場となることを目的にステージの常設と開放を行う。
実 施 内 容	・ダム湖面にステージを常設し地域住民の文化活動の場として開放する。 【例】 ・イベント時のメインステージとして活用 ・定期的に郷土芸能、演奏等の披露の場として活用 ・演奏練習の場としての活用 ・夏の週末の夜に夕涼み「水辺の音楽会(仮称)」を開催(菊池温泉の宿泊客も視野に入れる)等  The illustration shows a semi-circular stage built on a body of water, likely a reservoir or lake. Several people are on the stage, some standing and some sitting, appearing to be performing or practicing. In the foreground, a group of people is seated on a concrete tiered seating area, looking towards the stage. The background shows a green hillside and a dam structure in the distance.

15	ダムへのイルミネーション設置
目 的	・ 巨大なコンクリート構造物である竜門ダムと、周辺の自然景観との調和を図り、美しい景観を創出することで、地域観光産業の魅力増加を図る。
実 施 内 容	・ ダム堤体及び周辺に季節にあった電飾を施す。 ・ 図柄は一般から公募する。 【例】 ・ クリスマスにはクリスマスのイルミネーション ・ セタには天の川のイルミネーション

16	竜門ダム魅力発見ウォークラリー大会の開催
目 的	・竜門ダム周辺は公園等の施設や歴史資源を有している。これら地域資源を活かし、レクリエーションを通じ多くの人が集い交流し自然環境、地域の歴史・文化に触れて頂き、地域の魅力を多くの人に知ってもらう。
実 施 内 容	・竜門ダム周回道路等を利用したウォークラリー大会を開催する(ウォークラリーについてはふるさと振興会で定期的開催を試行実施中であるが、年に1回程度、流域や都市部の住民にも呼びかけ大きな大会を実施)。 ・ウォークラリーではダム周辺に整備されている公園、歴史資源等をチェックポイントとして、そこに立ち寄ることによりダム周辺のことを知ってもらう。 A colorful illustration showing a group of people participating in a walking rally. In the foreground, a man in a blue shirt and a woman in an orange shirt are walking towards the viewer. They are wearing bibs with the number 'A-1'. Behind them, other participants are visible, including a child in a yellow shirt. They are walking on a paved path that curves to the left. To the right of the path is a wooden fence, and beyond that, a body of water (the dam) and green hills under a blue sky. The scene is bright and cheerful, representing a community outdoor activity.

17	竜門ダム水源地域ビジョン情報発信
目 的	・水源地域の豊かな自然環境や地域資源、竜門ダムでできることなどをパンフレットや、既存の情報インフラを活用して発信し、地域外の人に水源地域を知っていただく。これによって竜門ダムへの来訪者を増加させる。
実施内容	<u>(1) パンフレット・市報等を活用した情報発信</u> ・水源地域住民自らの手で、竜門ダム水源地域パンフレットの内容を企画し作成・配布する。 ・水源地域活性化のための情報や水質保全の取り組みに関する情報を市の広報誌に掲載する。 <u>(2) 竜門倶楽部(仮称)のホームページの立ち上げ</u> ・竜門倶楽部(仮称)の活動紹介、森づくり活動や学習会への参加募集、インストラクターの募集等の情報発信を行う。 <u>(3) 情報表示盤の多目的活用</u> ・既存の河川管理情報表示盤をイベント情報の発信媒体として有効活用する。 <u>(4) リアルタイムの風景の発信</u> ・CCTV などを利用して、ダムや河川の1日の変化をリアルタイムにホームページ上で公開する。 - また、水源地域で行われるイベントのダイジェストVTRや観光地の紹介VTRを、ホームページ上で紹介する。また、植樹エリアの写真を定期的に掲載し、自分の植えた木の生育状況、その場所を身近に感じてもらう。 <u>(5) 双方向情報発信システムの構築</u> ・一方的な情報発信のみではなく、ホームページ閲覧者が自由に情報を地図等書き込むことのできる（例えば、ダムでの釣りポイント、おすすめの景観ポイント、うずもれた地域資源の位置やその歴史など）情報システムを構築する。



4. 役割分担

実施項目の役割分担及び実施時期を、表－4.1 に示します。

表－4.1 役割分担

実施メニュー		関 係 団 体 ・ 機 関 等																		実 施 時 期					備 考			
		住 民 個 々 人	各 種 団 体																菊 池 市	熊 本 県	竜 門 ダ ム	受 益 市 町 村	他 省 庁 そ の 他	短 期	中 長 期	さ ら に 検 討		
			対 ダ 策 ム 協 議 会 域	商 工 会	観 光 協 会	龍 門 区 長 会	ふ る さ と 振 興 会	キ ッ ズ 探 検 隊	未 来 を 考 え る 会	グ リ ン 業 研 ブ 究	グ 農 ル 村 プ 協 女 議 会 性	農 林 水 産 部	商 店 会 連 合 会	観 光 旅 館 協 同 組 合	地 域 協 同 組 合	代 表 性 者 団 体	協 同 草 組 農 合 業	J A 菊 池										協 同 池 川 組 漁 合 業
1	「竜門倶楽部（仮称）」の設立と活動実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
2	竜門の森づくり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
3	竜門インストラクターの養成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
4	ミュウじあむを活用した環境学習会の実施	○						○		○								○	○	○	○	○	○		○			
5	竜門文化学習会の実施			○	○	○												○	○	○					○			
6	水源地域の人の憩いの場づくり			○	○	○						○						○		○					○			
7	水とのふれあい場所の創出							○										○	○		○				○			
8	ダム湖面活用メニューの充実				○	○	○	○				○						○	○	○	○				○			
9	既存施設を活用した観光メニュー等の導入				○	○	○					○						○		○					○			
10	菊池温泉通貨制度の創設			○	○						○	○							○	○	○				○			
11	地域住民のダム管理への参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			○			
12	一坪花壇オーナー制度の創設	○			○	○	○				○			○	○				○	○	○				○			
13	竜門ダムふれあいスポーツ大会の開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○			
14	ダム湖面等へのステージの常設と開放	○			○		○					○							○		○				○			
15	ダムへのイルミネーション設置				○	○						○							○		○				○			
16	竜門ダム魅力発見ウォークラリー大会の開催	○			○	○	○	○				○							○	○	○				○			
17	竜門ダム水源地域ビジョン情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			

○：関わりがある人や団体 短期：2年以内 中長期：3年～10年程度
※各種団体名は略称のものもあります。

5. 活動組織

竜門ダム水源地域ビジョンの実現に向けて、実施メニューを推進するための核となる組織として「竜門倶楽部（仮称）」を設立します。活動は有志を中心として小規模なところから開始し徐々に参加者の拡大・活動の活発化を図ります。

5.1 竜門倶楽部（仮称）の設立

(1) 活動内容

「竜門倶楽部（仮称）」の役割は、竜門ダム周辺の自然・景観の保全活動の他、以下の事項を行います。

- ①本ビジョン推進に向けて、定期的な情報交換。
- ②本ビジョンで策定されたメニューの実施状況確認等のフォローアップ。
- ③メニューの実施に向けて必要が生じた場合には、内容・役割分担の見直しや各種調整。
- ④メニューをより詳細に検討し、具体的な実施を検討するワーキング部会の立ち上げの随時実施。

なお、本倶楽部は現在の「竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会」を発展的に継続させる形で構成します。

(2) 活動方法

- ①活動の拠点は龍龍館とします。
- ②竜門ダム水源地域ビジョン策定検討委員会メンバーの有志を中心に活動を行います。
- ③本組織は上記メンバー以外でもご協力頂ける方であればどなたでも参加頂けることとします。
- ④会合は2ヶ月程度に1回の頻度で行います。第1回目の会合は準備会議とし4月に実施します。
- ⑤会合は自由な発言を通じより良いアイデアを出せる場とするため、委員会方式等のスタイルにはこだわらないものとします。
- ⑥事務連絡等はミュウじあむを事務局とし行います。

5.2 実行ワーキング部会（仮称）の立ち上げ

竜門ダム水源地域ビジョンで掲げるメニューについて、「竜門倶楽部（仮称）」で継続的に協議を行い、実行に移すものから実行ワーキング部会を立ち上げ、具体的な個別メニューの検討を行います。なお、実行ワーキング部会のメンバーは、「竜門倶楽部（仮称）」の構成メンバーに加え、各検討事項に関する知識や興味をお持ち等でご協力を頂ける方であれば、どなたでもご参加頂けることとします。

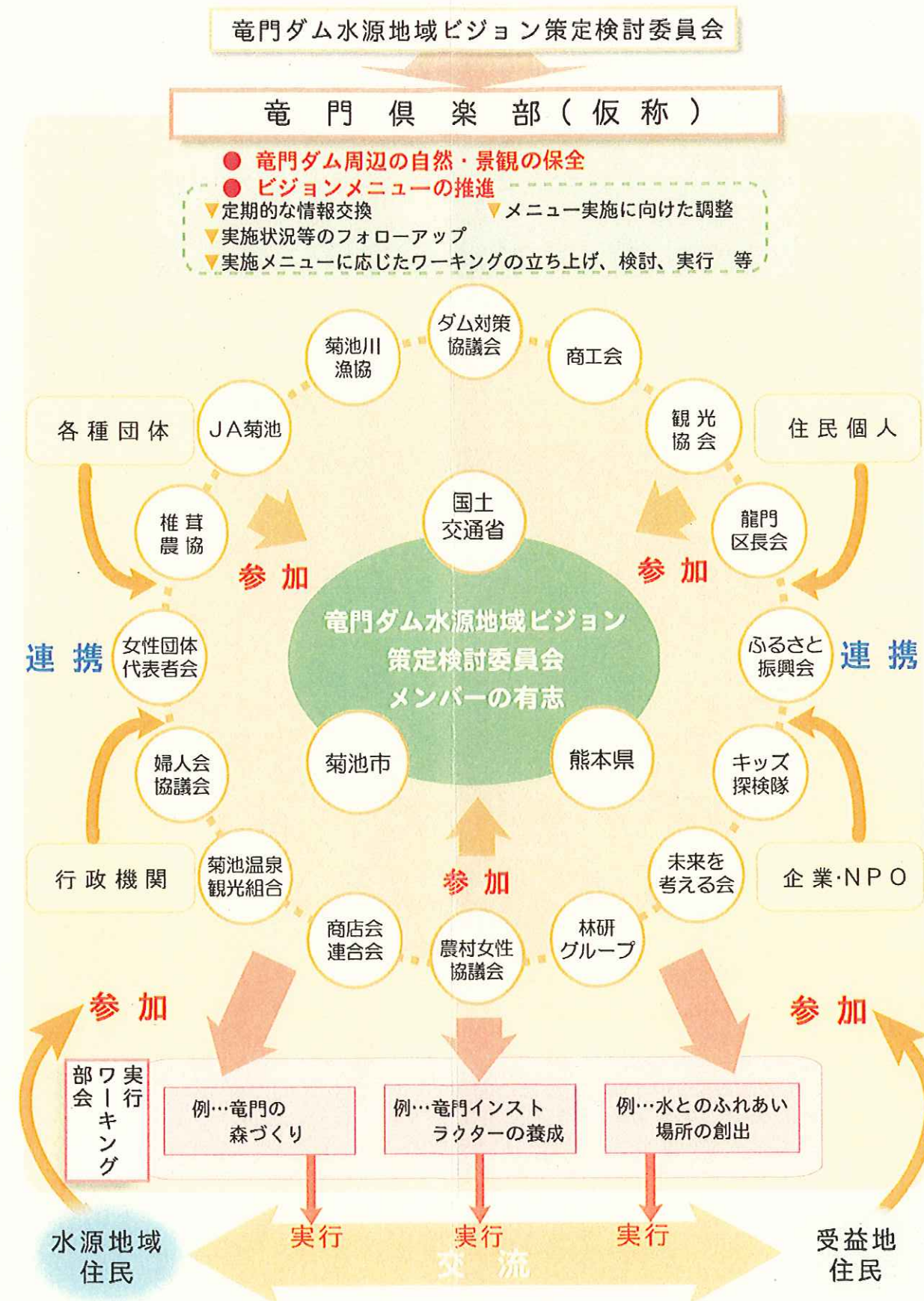


図-5.1 活動組織のイメージ